

博士學位論文審査結果の概要

ふりがな	ながや さちこ
氏 名	永谷 幸子
学位の種類	博士（看護学）
学位記番号	博第10号
学位授与年月日	平成27年3月13日
学位論文題目	Increasing cerebral oxyhemoglobin by ankle exercise: An attempt preventing symptoms of orthostatic hypotension (足関節運動による脳内酸素化ヘモグロビンの増加：起立性低血圧を予防するための試み)
審査委員	主査 石川県立看護大学 教授 川島 和代 副査 石川県立看護大学 教授 小林 宏光 副査 石川県立看護大学 教授 多久和 典子 副査 石川県立看護大学 教授 吉田 和枝
<p style="text-align: center;">審査結果の概要</p> <p>平成27年1月27日に博士論文審査会を開催し、申請者は研究の概要を20分程度で説明し、その後、質疑応答を行った。審査委員4名で審議した結果、本研究は本学の博士學位論文の学位授与に値すると判断した。</p> <p>申請者は、論文構成を4章立てとし、第1章では、起立性低血圧や体位変換とその評価指標に関する生理学、治療学、医療工学、看護学等の学際的な視点から、過去の国内外の研究文献97編を検討している。その中で「足関節の運動」が心拍出量を増加させ起立性低血圧の予防に寄与する可能性があること、また、起立性低血圧の評価指標として脳内の血流状態に着目したものがないことを明らかにした。そこで、研究目的を「足関節の運動」の脳循環への効果を検証することとし、まずは、心拍数や血圧に加え、脳内の血流状態を相対的に反映する酸素化ヘモグロビン（NIRS:近赤外線分光法を用いた前額部における測定値）を用いて基礎的なデータを固めようと研究計画を立案した。第2章における実験1では、地域在住の女性高齢者17名を対象に臥床状態で能動的・受動的な1分間の「足関節運動」前・中・後の心拍数や血圧、酸素化ヘモグロビンの推移を測定し、運動後の酸素化ヘモグロビンの有意な上昇を明らかにした。また、第3章における実験2では地域在住の成人と高齢者11名を対象に、臥床から端座位へのギャッジベッドによる体位変換を行い、かつ、足関節運動を実施しないコントロールも加えた研究計画を立案した。能動的な足関節運動実施後の体位変換後は、対象の酸素化ヘモグロビンの低下を緩和させることが明らかとなった。以上の2つの実験結果を踏まえて第4章では総合的な考察を行い、能動的な運動が体位変換後の初期の脳内酸素化ヘモグロビンの低下を緩和させる効果をもたらすと推測できた。</p> <p>全編を通して、申請者は直接関連する分野ならびに周辺領域に関する専門知識を十分に有するのみならず、看護ケアの開発に向けて独創的な視点、緻密な研究計画の立案・遂行等の能力を持っている。また、本研究結果は、仰臥位から端座位時の一過性の起立性低血圧による転倒等の防止に向けて新たな看護ケア方法の提案・開発に寄与すると考える。</p>	